

2023年 通常総会 議案資料

日 時 : 2023年3月22日(水) 16:00～17:00

場 所 : 東京大学 本郷キャンパス 工学部2号館 1階212号講義室
オンライン併設

16:00～17:00 通常総会

1. 開会

2. 会長挨拶

3. 議事

第1号議案 議事録署名人の選出

第2号議案 2022年度 事業報告

第3号議案 2022年度 収支決算報告

第4号議案 2023年度 事業計画

第5号議案 2023年度 収支予算

第6号議案 2023年度 理事および監事の選出

4. 閉会

17:00～ フェロー贈呈式/学術奨励賞授与式



特定非営利活動法人

日本バーチャルリアリティ学会

第1号議案 議事録署名人の選出

理事から2名を議事録署名人に選任します。

第2号議案 2022年度 事業報告

2022年度は、例年の主要行事である第27回目となる大会を札幌市立大学とオンラインのハイブリッドで開催しました。オンライン国際会議の主催も行いました。

1. 会員に関する事項

2022年度は、1996年に学会が発足して以来27年目に入り、引き続き、各種行事、学会ホームページなどにおいて、入会者の勧誘を行いました。賛助会員の新規加入は4社を得、正会員76名・学生会員258名の入会がありました。また、2022年通常総会議決により、正会員46名・学生会員2名を会員資格喪失(定款第9条 会費未納)とさせて頂きました。

	正会員	学生会員	賛助会員
1996年度末数	381	100	31
1997年度末数	497	149	38
1998年度末数	578	172	38
1999年度末数	628	205	38
2000年度末数	692	228	37
2001年度末数	686	230	34
2002年度末数	761	257	33
2003年度末数	788	265	30
2004年度末数	844	273	26
2005年度末数	828	269	21
2006年度末数	869	191	23
2007年度末数	835	268	23
2008年度末数	832	281	23
2009年度末数	842	263	22
2010年度末数	855	307	18
2011年度末数	848	361	20
2012年度末数	853	341	20
2013年度末数	857	312	20

2014年度末数	867	307	18
2015年度末数	900	303	19
2016年度末数	960	335	34
2017年度末数	1033	383	40
2018年度末数	1078	379	40
2019年度末数	1047	453	41
2020年度末数	1113	378	37
2021年度末数	1132	430	40
2022年度末数	1145	532	41
2022年度目標	1150	450	43
2022年度目標との差	▲5	82	▲2

2. 広報・出版に関する事項

(1) 学会誌

2022年度は、学会誌を3月、6月、9月、12月と年間4回発行しました。また、発刊と同時にJ-STAGEに記事(理事会だより等の学会記録部分を除く)を公開しています。過去記事については、第1巻から第10巻までをJ-STAGE公開しました。

	特集内容
Vol.27, No.1	ポストコロナ時代に向けたテレイマージョン
Vol.27, No.2	生物飼育はVRだ！行動生態学者の採集フィールドワークの話
Vol.27, No.3	デジタルツインに関する技術と応用
Vol.27, No.4	第27回大会報告

(2) 論文誌

2022年度は、論文誌を3月、6月、9月、12月と年間4回発行しました。4分野の特集を企画し、特定域の成果を一覧できるように致しました。ただし、Vol.27 No.2については投稿数が少なく、採録数が規定の3本に満たなかったため特集が不成立となりました。本年度の特集内容と掲載された論文数は以下の通りです。

	特集内容	特集 投稿(採録数)	一般 採録数
Vol.27, No.1	五感と感覚間相互作用	19(12)	2

Vol.27, No.2	特集無し	4(1)	2
Vol.27, No.3	神経インタフェース	11(5)	8
Vol.27, No.4	人間拡張:身体, 運動, 知覚, 認知の拡張	25(15)	2

種類	基礎論文	応用論文	コンテンツ 論文	総説論文	ショート ペーパー	計
論文数	36	3	3	1	4	47

(3) 文化・芸術

2022年度はVR文化フォーラム2022 in パトレイバー塾 2回の開催, VR文化フォーラム2022 in 池之端 プチを開催いたしました。

他, 幾つかVR文化フォーラムを企画していたのですが, コロナ禍を鑑み, 開催ができないものもありました。

(4) ニュースレター

会員宛てに月1回(年12回), 電子メールによるニュースレターの送付を行いました。同様に, 学会WEBサイトへの投稿を行いました。内容は, 1. 報告集 2. 学会からのお知らせ主催・共催行事のご案内／協賛行事のご案内／論文誌に関するご案内 3. 関連情報CALL FOR PAPER／CALL FOR PARTICIPATION／ニュースレター編集委員会からのお知らせなどで構成され, バーチャルリアリティに関する国内外の情報を中心に情報提供を行いました。

(5) 電子広報

学会ホームページにて, 年次大会, VR技術者認定制度, 各種会議, 論文誌特集等の情報を随時更新, また学会誌のバックナンバーを公開しております。(<https://vrsj.org/>)

3. 主催・共催事業に関する事項

2022年度に主催・共催した事業は以下となります。(■主催事業・□共催事業)

■ 第27日本バーチャルリアリティ学会大会

会期 2022年9月12日(月)-14日(水)

会場 札幌市立大学デザイン学部 ハイブリッド開催

大会長 石井 雅博

発表件数

一般口頭発表271件・技術・芸術展示80件・OS13件(総計364)

特別講演2件・企業展示9社(企業セミナー2社)

口頭発表会場数 6

参加者数

OS参加非会員一般11(事前2, 研究会招待枠9)

一般会員10(事前5, 当日5)

学生会員259(登壇者230, 聴講のみ(事前)21, 聴講のみ(当日)8)

学生会員(IVRC)32(登壇者26, 聴講のみ(事前)6)

正会員193(事前155, 当日38)

正会員(上級)3(事前3)

正会員(上級・減免)4(事前4)

非会員(一般)81(事前33, 当日48)

非会員(学生)96(聴講のみ(事前)64, 聴講のみ(当日)32)

無料参加者3(無料3)

(総計692 (昨年691))

※会場には連日500程度の参加者がいたと思われる

※オンラインからの参加者数は不明

■ 「第30回 IVRC (Interverse Virtual Reality Challenge)」

昨年に続き、コンテストから各チームのチャレンジをさまざまな観点で評価し顕彰する「VRチャレンジ」として Interverse Virtual Reality Challengeをオンライン＋対面の体験会の形式で開催しました。

SEED Stageでは、まず9月2日-3日に体験審査会を実施しました。次いで12日に大会のOSとして、書類審査不通過作品復活のチャレンジ枠通過4件を含む合計23件の発表会、同日夕刻に企業賞含む各賞の表彰式を行いました。LEAP Stageは11月5日-6日にサイエンスアゴラにて対面で実施されました。新型コロナウイルス流行以降で初の一般観客を対象とした開催です。同Stageでは、フランスから来日したLaval Virtual招待作品1件を含む全12作品から総合優勝、審査員賞、Laval Virtual賞、ICAT-EGVE賞を含む各賞を選出、発表しました。

■ 文化・芸術

VR文化フォーラム2022 in パトレイバー塾 2回の開催をいたしました。

- 第3回 2022年4月9日(参加者200名) テーマ「正しいパトレイバーの使い方」
- 第4回 2022年8月21日(参加者182名) テーマ「パトレイバーの世界から読み解く都市のサイバー危機」

VR文化フォーラム2022 in 池之端 プチ の開催をいたしました。

- 2022年10月22日(参加者21名) テーマ「アーカイブとVR: 池之端の岩田邸の視察と3Dスキャンのワークショップ」

■ AHs2022

学会主催 Augmented Humans 2022(2022年3月13日-15日・実行委員長:持丸先生)の会計担当 善甫先生(筑波大)より、100万円の短期貸付金申請書の提出があり貸し付けの上開催しました。

- Date: March 13 - 15, 2022

- Place: Kashiwa, Chiba, Japan / Hybrid
- GENERAL CHAIR
Masaaki Mochimaru (AIST, Japan)
- PC CHAIRS
Yuichi Kurita (Hiroshima University, Japan)
Martin Schmitz (Technical University of Darmstadt, Germany)
Karola Marky (University of Glasgow, United Kingdom)

最終的な黒字は, ¥324,572

参加者数:

100人(参加登録数)+おおよそ40人(Featured sessionのみ)

採択数/投稿数:

フルペ: 24/53

ショート: 5/24

ポスター: 16/32

デモ: 3/5

■ ICAT-EGVE 2022

- Date: November 30-December 3, 2022
- Place: Yokohama, Japan / Hybrid
- <https://icat.vrsj.org/2022/>
- 基調講演:
真鍋 大度様(メディアアーティスト/慶大特別招聘教授・VRSTと共同基調講演), 加藤 直人(ク
ラスターCEO・VRSTと共同基調講演),
Anatole Lécuyer(Director of Research, Inria), 宮脇 陽一先生(電通大教授,)南澤 孝太先生
(慶大教授), 岩井大輔(阪大准教授)
- 参加者: オンサイト90名, オンライン3名.

□ AsiaHaptics2022

AsiaHaptics2022が, 11/12-14に2名のGeneral chair: Prof. Dangxiao Wang (Beihang University, China) , Prof. Aiguo Song (Southeast University, China)のもと, 中国を中心として4つのサテライト会場(北京, 南京, 東京, Daejeon)にて開催されました. 中国の会場からはキーノート講演, 授賞式などがライブ配信されました. なお, 東京サテライト会場では, 現地世話人として東京大学の中村 拓人先生, 鳴海 拓志先生, 牧野 泰才先生にサポートいただき, 11/12に32件のデモ展示が行われ, 100名超の参加がみられました.

参加者数の概数は北京会場60名, 南京会場30名, Daejeon会場64名, 東京会場115名でした. COVID-19により, 特に中国では厳しい行動制限があるなかでの開催でしたが, 中国・韓国・日本の3カ国の協力体制のなか盛

会のうちに会が終了しました。

□ 高臨場感ディスプレイフォーラム2022

2022年11月25日に日比谷図書文化館 日比谷コンベンションホール(大ホール)で開催, オンライン配信を併設いたしました。VR学会からは20名が参加しました。

テーマ「～視覚・聴覚・触覚による高臨場感の最前線～」

4. 企画事業に関する事項

2022年度に企画した事業は以下となります。

(1) 研究委員会

計17の研究委員会が下表のように会員に公開する研究会(含, 他学会との共催), OS, 講演会, シンポジウム, 書籍編集などを実施しました。

研究委員会名	研究会等の開催回数	備考
サイバースペースと仮想都市研究委員会	5	継続
複合現実感研究委員会	4	継続
アート&エンタテインメント研究委員会	2	継続
VR心理学研究委員会	2	継続
テレイマージョン技術研究委員会	4	継続
香り・味と生体情報研究委員会	3	継続
拡張認知インタフェース調査研究委員会	2	継続
ハプティクス研究委員会	5	継続
情報技術と文化の融合調査研究委員会	2	継続
3次元ユーザインタフェース研究委員会	0	継続
デジタルミュージアム研究委員会	1	継続
VRと超臨場感研究委員会	1	継続
テレイグジスタンス研究委員会	1	継続
超高齢社会のVR活用研究委員会	1	継続
人間拡張研究委員会	3	継続

神経刺激インターフェース研究委員会	1	継続
サービスVR研究委員会	1	継続

(2) VR技術者認定講習会・試験

第20回と第21回の講習会・試験をそれぞれオンラインで実施しました。

第20回(セオリーコース)

講習会 6月18日 申込者208名

試験 7月16日 受験者140名

第21回

講習会 11月12日 (アプリケーションコース) 申込者125名

試験 12月10日 (セオリーコース) 受験者145名

(アプリケーションコース) 受験者215名

(3) 各種ワーキンググループ

● 未来ビジョンワーキンググループ

VRおよびVR学会の将来を議論する未来ビジョンWGを発足し、年度内に1次答申を出すことを目標に月一程度で適宜ゲストを呼びつつ議論を行います。すでに11月22日、1月10日、2月7日の3回開催しました。

幹事:長谷川晶一(東工大) メンバー:石塚裕己(阪大), 入江英嗣(東大), 亀岡嵩幸(電通大), せきぐちあいみ(アーティスト), 中垣拳(シカゴ大), 三河祐梨(東大/TUM), 三武裕玄(明治大), よーへん(VTuber)

● 倫理ワーキンググループ

VR分野の人を対象とする研究のための倫理に関する意識アンケート調査を実施し、110件の回答がありました。大会OSで調査報告を行い、大学院生や若い研究者を含む多くの聴衆が集まりました。

● ホームページ刷新ワーキンググループ

VR学会ウェブページの刷新について、必要機能を議論し、実装工程を管理するWGを発足しました。産業界との連携促進、会員同士の連携促進、VR知識の普及啓蒙といった課題への対応を狙います。2024年完成を目指して、2023年は仕様検討、試作を行います。

5. 会議に関する事項 総会

2022年通常総会を3月29日にオンラインで行いました。

(1) 理事会

合計6回の理事会を開催いたしました。開催日程は次の通りです。

理事会のない月に会長・副会長及び総務・経理担当者および監事による総務会議を開催致しました。

回	開催日	会場	主な議事
183	1月26日	オンライン	通常総会準備, フェロー選考報告, WGの新設,各担当理事報告
184	3月8日	オンライン	通常総会資料確認, 開催方法確認, 2021決算・2022予算の提出, 各担当理事報告
185	5月18日	オンライン	第27回大会開催について, 論文賞選考, WG新設,各担当理事報告
186	7月19日	オンライン	論文賞選考, 研究業績賞受賞者,第27回大会,各担当理事報告
187	9月12日	札幌市立大学オンライン併設	第27回大会報告, 各担当理事報告,12月認定試験開催方法
188	11月16日	オンライン	通常総会・役員選挙スケジュール確認, 第27回大会開催報告, イベント・会議余剰金分配, 学術奨励賞結果報告, 各担当理事報告

(2) 評議員会

回	開催日	会場	主な議事
1	3月29日	オンライン	年間報告・計画について
2	9月13日	オンライン	年間報告・計画について

6. 表彰に関する事項

(1) フェロー

日本バーチャルリアリティ学会フェローは、バーチャルリアリティの学術文化および本会の発展に顕著な貢献を成し、将来にわたって本会の活動を積極的に推進しうる者を顕彰するために、2010年度から称号授与が始まりました。本制度は、会員による推薦に基づいており、2022年度の推薦書より、日本バーチャルリアリティ学会の活動に多大な貢献をなした以下の1名に贈呈することを決定致しました。

大須賀 美恵子(大阪工業大学)

(2) 研究業績賞

研究業績賞は本会が関与する学術分野における生涯の研究業績を称えることをもって、この分野の発展をはかることを目的とする賞です。第1回目である2022年度は、以下の1名に、VR学術分野における長年の研究業績を称え、贈呈いたしました。

舘 暉(東京大学 名誉教授)

(3) 論文賞

論文誌Vol.26No.1 からVol.26No.4に掲載された論文の中から優秀な論文を選考し、5件の論文に論文賞を贈呈致しました。

- 画素一致プロジェクタ-カメラシステムによる動的プロジェクションマッピング
(論文誌, Vol.26, No1 p. 107-116, 2021) 山本健太, 岩井大輔, 佐藤宏介
- 多点同時振動刺激による肩関節の運動錯覚
(論文誌, Vol.26, No2 p. 143-154, 2021) 牛山奎悟, 田中叡, 高橋哲史, 梶本裕之
- 自己アバタの三人称視点操作を用いたself-distancing
(論文誌, Vol.26, No3 p. 198-207, 2021) 畑田裕二, 吉田成朗, 鳴海拓志, 葛岡英明
- 磁石の遠隔駆動を用いた簡便なウェアラブル触覚提示
(論文誌, Vol.26, No4 p. 310-319, 2021) 浅津秀行, 田中叡, 梶本裕之
- LayerPump:Electrohydrodynamicsポンプを内蔵した積層型3Dオブジェクトの設計とファブリケーション
(論文誌, Vol.26, No4 p. 345-354, 2021) 藤井樹里, 中丸啓, 寛康明

(4) 学術奨励賞

第27回日本バーチャルリアリティ学会大会で優秀な発表を行った若手講演者9名に対して、学術奨励賞を贈呈することを決定致しました。

口頭発表部門

- 追跡型投影による人間の視覚特性を利用した運動物体の不可視化と方向・速度操作
佐藤 健吾(東京工業大学)
- モニタ上の3Dアバタによる環境的文脈操作を用いた記憶支援手法の効果
瑞穂 嵩人(東京大学)
- 片側性直交鏡型再帰透過光学素子の結像メカニズムとその性能
虫鹿 剛瑠(岐阜大学)
- 環境照明再現により投影テクスチャのコントラスト低下を抑制するプロジェクションマッピング
竹内 正稀(大阪大学)
- スマートフォンで利用可能な高臨場感振動変換法を用いた体感付き動画の提案
星 裕也(東北大学)

技術・芸術展示部門

- 皮膚温度変化をゼロに保ちつつ感覚を生じさせる非接触冷覚提示
許 佳禕(筑波大学)
- 化学物質を用いたサーマルグリル錯覚における刺激配置の検討
浜崎 拓海(電気通信大学)
- 指先側面への電気刺激による疑似力覚提示の検討
中山 翔太(電気通信大学)
- TeleStick: 動画に触覚情報を収録できるカメラ周辺機器と再生手法
内橋 亮人(明治大学)

第3号議案

2022年度 収支決算報告

1. 貸借対照表

貸借対照表

2022年12月31日現在

特定非営利活動法人 日本バーチャルリアリティ学会

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	82,854,463	71,229,278	11,625,185
未収金	2,944,714	2,479,962	464,752
貯蔵品	430,897	0	430,897
前払費用	2,814	2,216	598
流動資産合計	86,232,888	73,711,456	12,521,432
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
事務局準備金	20,000,000	20,000,000	0
国際会議準備金	13,800,000	13,800,000	0
国内会議準備金	9,000,000	9,000,000	0
資料編纂・出版準備金	1,800,000	1,800,000	0
特定資産合計	44,600,000	44,600,000	0
固定資産合計	44,600,000	44,600,000	0
資産合計	130,832,888	118,311,456	12,521,432
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	7,430,361	4,119,720	3,310,641
前受金	276,000	346,000	△ 70,000
預り金	10,398	27,011	△ 16,613
未払法人税等	706,500	603,800	102,700
未払消費税等	756,200	468,900	287,300
流動負債合計	9,179,459	5,565,431	3,614,028
負債合計	9,179,459	5,565,431	3,614,028
III 正味財産の部			
1. 一般正味財産	121,653,429	112,746,025	8,907,404
正味財産合計	121,653,429	112,746,025	8,907,404
負債及び正味財産合計	130,832,888	118,311,456	12,521,432

2. 正味財産増減計算書

正味財産増減計算書

2022年 1月 1日から2022年12月31日まで

特定非営利活動法人 日本バーチャルリアリティ学会

(単位: 円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取入会金	1,068,000	812,000	256,000
受取会費	17,175,000	15,502,000	1,673,000
正会員会費	10,726,000	9,355,000	1,371,000
学生会員会費	1,814,000	1,277,000	537,000
賛助会員会費	4,100,000	4,000,000	100,000
一般会員会費	30,000	380,000	△ 350,000
購読会員会費	505,000	490,000	15,000
事業収入	30,165,794	18,246,103	11,919,691
年次大会	9,226,000	6,720,000	2,506,000
IVRC	2,100,022	1,900,020	200,002
AHs	1,065,002	0	1,065,002
ICAT	3,115,000	0	3,115,000
科研費助成金	1,200,002	0	1,200,002
研究委員会活動収入	1,186,508	501,003	685,505
講習会収入	5,606,500	3,495,500	2,111,000
出版収入	6,666,760	5,629,580	1,037,180
論文誌投稿料収入	4,645,000	4,157,000	488,000
その他出版物収入	2,021,760	1,472,580	549,180
その他収入	1,143,562	155,903	987,659
雑収入	135,670	154,995	△ 19,325
受取利息	892	908	△ 16
寄付金	1,007,000	0	1,007,000
経常収益計	49,552,356	34,716,006	14,836,350
(2) 経常費用			
事業費	30,005,764	19,200,374	10,805,390
通常総会費	92,675	92,675	0
年次大会費	6,796,553	4,320,462	2,476,091
IVRC	3,652,856	3,468,951	183,905
AHs	795,968	0	795,968
ICAT	3,012,755	0	3,012,755
科研費	1,200,002	0	1,200,002
研究委員会活動費	1,706,478	888,998	817,480
支払負担金	12,000	0	12,000
講習会費	4,762,059	3,736,037	1,026,022
出版事業費	7,260,679	6,134,535	1,126,144
学会誌	4,981,070	3,760,493	1,220,577
論文誌	1,803,828	1,517,081	286,747
その他刊行費	475,781	856,961	△ 381,180
授与費	713,739	558,716	155,023
管理費	9,540,778	8,542,762	998,016
印刷費	4,768	6,484	△ 1,716
消耗品費	18,700	4,103	14,597
諸会費	50,000	50,000	0
通信運搬費	249,614	210,630	38,984
情報システム管理費	878,243	946,914	△ 68,671
電子広報費	165,000	165,000	0
会議費	121,743	40,920	80,823
支払手数料費	266,443	240,643	25,800
租税公課	758,043	469,033	289,010
事務局運営費	7,028,224	6,409,035	619,189
その他	391,910	1,300,472	△ 908,562
雑費	391,910	1,300,472	△ 908,562
経常費用計	39,938,452	29,043,608	10,894,844
評価損益等調整前当期経常増減額	9,613,904	5,672,398	3,941,506
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	9,613,904	5,672,398	3,941,506
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	9,613,904	5,672,398	3,941,506
法人税、住民税及び事業税	706,500	603,800	102,700
当期一般正味財産増減額	8,907,404	5,068,598	3,838,806
一般正味財産期首残高	112,746,025	107,677,427	5,068,598
一般正味財産期末残高	121,653,429	112,746,025	8,907,404
II 正味財産期末残高	121,653,429	112,746,025	8,907,404

3. 予算対比正味財産増減計算書

予算対比正味財産増減計算書

2022年 1月 1日から2022年12月31日まで

特定非営利活動法人 日本バーチャルリアリティ学会

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取入会金	900,000	1,068,000	△ 168,000
受取会費	16,574,000	17,175,000	△ 601,000
正会員会費	10,455,000	10,726,000	△ 271,000
学生会員会費	1,584,000	1,814,000	△ 230,000
賛助会員会費	4,000,000	4,100,000	△ 100,000
一般会員会費	50,000	30,000	20,000
購読会員会費	485,000	505,000	△ 20,000
事業収入	23,974,500	30,165,794	△ 6,191,294
年次大会	7,785,000	9,226,000	△ 1,441,000
IVRC	2,700,000	2,100,022	599,978
AHs	1,670,000	1,065,002	604,998
ICAT	874,000	3,115,000	△ 2,241,000
科研費助成金	0	1,200,002	△ 1,200,002
研究委員会活動収入	457,500	1,186,508	△ 729,008
通常総会収入	80,000	0	80,000
講習会収入	3,398,000	5,606,500	△ 2,208,500
出版収入	7,010,000	6,666,760	343,240
過去会誌頒布収入	10,000	0	10,000
論文誌投稿料収入	5,000,000	4,645,000	355,000
その他出版物収入	2,000,000	2,021,760	△ 21,760
その他収入	156,000	1,143,562	△ 987,562
雑収入	155,000	135,670	19,330
受取利息	1,000	892	108
寄付金	0	1,007,000	△ 1,007,000
経常収益計	41,604,500	49,552,356	△ 7,947,856
(2) 経常費用			
事業費	30,351,965	30,005,764	346,201
通常総会費	300,000	92,675	207,325
年次大会費	8,000,000	6,796,553	1,203,447
IVRC	4,746,100	3,652,856	1,093,244
AHs	1,433,515	795,968	637,547
ICAT	852,249	3,012,755	△ 2,160,506
科研費	0	1,200,002	△ 1,200,002
研究委員会活動費	1,824,200	1,706,478	117,722
支払負担金	0	12,000	△ 12,000
講習会費	2,911,401	4,762,059	△ 1,850,658
出版事業費	9,684,500	7,260,679	2,423,821
学会誌	7,008,500	4,981,070	2,027,430
論文誌	1,666,000	1,803,828	△ 137,828
その他刊行費	1,010,000	475,781	534,219
授与費	600,000	713,739	△ 113,739
管理費	9,043,000	9,540,778	△ 497,778
印刷費	8,000	4,768	3,232
消耗品費	70,000	18,700	51,300
諸会費	50,000	50,000	0
通信運搬費	300,000	249,614	50,386
情報システム管理費	1,000,000	878,243	121,757
電子広報費	165,000	165,000	0
会議費	200,000	121,743	78,257
支払手数料費	300,000	266,443	33,557
租税公課	450,000	758,043	△ 308,043
事務局運営費	6,500,000	7,028,224	△ 528,224
その他	176,000	391,910	△ 215,910
雑費	176,000	391,910	△ 215,910
経常費用計	39,570,965	39,938,452	△ 367,487
評価損益等調整前当期経常増減額	2,033,535	9,613,904	△ 7,580,369
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	2,033,535	9,613,904	△ 7,580,369
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	2,033,535	9,613,904	△ 7,580,369
法人税、住民税及び事業税	603,800	706,500	△ 102,700
当期一般正味財産増減額	1,429,735	8,907,404	△ 7,477,669
一般正味財産期首残高	112,746,025	112,746,025	0
一般正味財産期末残高	114,175,760	121,653,429	△ 7,477,669
II 正味財産期末残高	114,175,760	121,653,429	△ 7,477,669

4. 財産目録

財産目録

2022年12月31日現在

特定非営利活動法人 日本バーチャルリアリティ学会

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額	
(流動資産)					
	預金	普通預金		36,470,920	
		みずほ銀行本郷支店(2578257)	運転資金として(VRSJ)	32,103,568	
		ゆうちょ銀行〇一八店(5960736)	運転資金として(IVRC)	1,591,740	
		三菱UFJ銀行本郷支店(4615998)	運転資金として	135,001	
		きらばし銀行春日町支店(4044400)	運転資金として	100,603	
		りそな銀行本郷支店(1749463)	運転資金として	52,992	
		みずほ銀行本郷支店(2677247)	運転資金として	1,927,372	
		サインスペースと仮想都市研究委員会	運転資金として	559,644	
		郵便振替		46,383,543	
	東京振替貯金局(00120-8-161702)	運転資金として	46,383,543		
	未収金			2,944,714	
		国際文献社	2022年度会費クレジット決済分	584,000	
	論文集投稿料	Vol127-2_1件、Vol127-4_16件	1,770,000		
	その他請求	VR学売上、イベント余剰金	590,714		
貯蔵品			430,897		
		VR学在庫480部	430,897		
	前払費用		2,814		
	さくらインターネット㈱	ドメインサービス利用料	2,814		
流動資産合計				86,232,888	
(固定資産)					
特定資産					
	事務局準備金			20,000,000	
		定期預金三菱UFJ銀行本郷支店(4615998)		10,000,000	
		定期預金きらばし銀行春日町支店(4019664)		10,000,000	
	国際会議準備金			13,800,000	
		定期預金みずほ銀行本郷支店(6689991)		13,800,000	
	国内会議準備金			9,000,000	
		定期預金りそな銀行本郷支店(4071426)		6,000,000	
	資料編纂・出版準備	定期預金みずほ銀行本郷支店(6689991)		1,000,000	
		定期預金みずほ銀行本郷支店(6689991)	アート&エンタテインメント研究委員会	2,000,000	
				1,800,000	
		定期預金みずほ銀行本郷支店(6689991)		1,800,000	
固定資産合計				44,600,000	
資産合計				130,832,888	
(流動負債)					
	未払金			7,430,361	
		印刷製本費	Vol127-3～4論文誌・学会誌経費	2,632,575	
		電子広報費	WEB保守費用	165,000	
		講習会費	第21回VR技術者認定講習会試験経費	2,738,150	
		研究委員会口	香り・味と生体情報研究委員会経費	165,169	
		事務局運営費	10-12月事務局業務委託費	1,617,677	
		その他	図版作成報酬、共催分担当	111,790	
	前受金			276,000	
		入会金	翌年度以降入会金	24,000	
		正会員会費	翌年度以降年会費	46,000	
		学生会員会費	翌年度以降年会費	51,000	
		賛助会員会費	翌年度以降年会費	100,000	
		一般会員会費	翌年度以降年会費	30,000	
		購読会員会費	翌年度以降年会費	25,000	
	預り金			10,398	
		四谷税務署	源泉徴収税_報酬区分	9,901	
		四谷税務署	源泉徴収税_給与区分	497	
	未払法人税等	四谷税務署、新宿都税事務所	2022年度法人税	706,500	
	未払消費税等	四谷税務署	2022年度消費税	756,200	
	流動負債合計				9,179,459
	負債合計				9,179,459
	正味財産				121,653,429

4. 財務諸表に関する注記

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方法による。

2. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
事務局準備金	20,000,000	0	0	20,000,000
国際会議準備金	13,800,000	0	0	13,800,000
国内会議準備金	9,000,000	0	0	9,000,000
資料編纂・出版準備金	1,800,000	0	0	1,800,000
合 計	44,600,000	0	0	44,600,000

3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に対する額)
特定資産				
事務局準備金	20,000,000	(0)	(20,000,000)	(0)
国際会議準備金	13,800,000	(0)	(13,800,000)	(0)
国内会議準備金	9,000,000	(0)	(9,000,000)	(0)
資料編纂・出版準備金	1,800,000	(0)	(1,800,000)	(0)
合 計	44,600,000	(0)	(44,600,000)	(0)

附属明細書

1. 特定資産の明細

特定資産について、財務諸表の注記 2. 特定資産の増減額及びその残高に記載をしているため、記載を省略する。

5. 会計監査報告

特定非営利活動法人日本バーチャルリアリティ学会

会長 竹村 治雄 殿

特定非営利活動法人日本バーチャルリアリティ学会の 2022 年度決算
報告書について監査を実施しました。その結果、帳簿類並びに領収書等
は完備されており、支出ならびに収支決算について適切であると判断い
たしました。

2023 年 2 月 16 日

監事

石橋 聡



特定非営利活動法人日本バーチャルリアリティ学会

会長 竹村 治雄 殿

特定非営利活動法人日本バーチャルリアリティ学会の 2022 年度決算
報告書について監査を実施しました。その結果、帳簿類並びに領収書等
は完備されており、支出ならびに収支決算について適切であると判断い
たしました。

2023 年 2 月 16 日

監事 岩田 洋夫 

第4号議案 2023年度 事業計画

2023年度は学会発足以来27年目であり、これまでの実績に基づいて、より充実した学会運営体制を構築してまいります。おもな事業として、第28回大会を東京たま未来メッセ(八王子)で開催致します。これまで以上に会員サービスの一層の充実を図るとともに、学会の基盤をさらに固めるために、会員数の増加を推進致します。

1. 会員に関する事項

2023年度は、学会が発足後28年目であり、一層充実した組織体制を構築する必要があります。このため、会員増を目指した積極的な勧誘を継続的に実施いたします。学会WEBページでの入会受け付けなどにより、入会希望者の便を図るとともに、賛助会員についても関連団体・企業の新規加入を目指して努力いたします。2023年度の目標を次表に示します。また、定款第9条に従い、所定の手続きの上、正会員39名、学生会員5名を資格喪失(会費未納入)とします。

	正会員	学生会員	賛助会員
2022年度末数	1145	532	41
2023年度目標数	1160	535	43

2. 広報・出版に関する事項

(1) 学会誌

2023度は、第28巻として、3、6、9、12月の年4回の発行を予定しており、特集として以下の企画と、東京たま未来メッセで行われる第28回大会報告を予定しています。

	特集内容
Vol.28, No.1	IVRC 30周年
Vol.28, No.2	ACT-X / ACT-I 予算獲得と成長の物語
Vol.28, No.3	海外での教員経験
Vol.28, No.4	第28回 大会報告

(2) 論文誌

2023度も、論文誌は年4回(3、6、9、12月)発行します。会員からの投稿論文(基礎論文、応用論文、コンテンツ論文、ショートペーパー)および、特定のトピックスに焦点をあてた専門家による総説論文を対象とします。また、毎号特集テーマを決め、ゲストエディタをお願いして、特集論文の投稿を積極的に勧誘します。

尚、今後の特集内容は以下を企画しております。

	特集内容
--	------

Vol.28, No.1	つなぐ技術(人・モノ・社会)3
Vol.28, No.2	アート+エンタテインメント6
Vol.28, No.3	複合現実感9
Vol.28, No.4	社会とハプティクス

(3) 文化・芸術

2022年度新しく加わりました委員も含め新しい企画をいたしますのでご参加よろしく願いいたします。

コロナ禍のために延期になっていた企画も徐々に検討いたします。

- ・ ASIAGRAPH & VR文化フォーラム in 沖縄

OIST及び沖縄県立芸術大学を会場に、ASIAGRAPHと文化フォーラムを同時開催することを検討

- ・ VR文化フォーラム in Ars Electronica Festival

海外でのVR文化フォーラムとして9月にオーストリアリンツで開催されているArs Electronica Festivalを訪問するツアーを検討

- ・ VR文化フォーラム202x in 瀬戸内

前回開催された文化フォーラム@瀬戸内国際芸術祭でツアーしきれず、見逃した島々を中心に巡る開催(直島のアート鑑賞、地中美術館や犬島などを訪問、常設展を見学)についてもご要望をいただいております、繁忙期をずらすことで余裕をもって視察する方向で検討。

(4) ニュースレター

バーチャルリアリティに関する有益な情報を整理してニュースレター形式に編集し、月に1回、電子メールにて会員に送付します。またホームページでも会員向けに最新のニュースレターを掲載します。

内容は、2022度に続き「1. 報告集 2. 学会からのお知らせ 主催・共催行事のご案内／協賛行事のご案内／論文誌に関するご案内 3. 関連情報 CALL FOR PAPER／CALL FOR PARTICIPATION／ニュースレター編集委員会からのお知らせ」などで構成されます。

本学会員が国内外のバーチャルリアリティの動向や進行中のアクティビティを的確に把握できるよう努め、多様なイベントにあわせて随時特集を掲載、会員サービスの向上を目指して刊行いたします。

(5) 電子広報

取材や問い合わせに対応しています。

また、学会ホームページにて、年次大会、VR技術者認定制度、各種会議、論文誌特集等の情報を随時更新しております。(https://www.vrsj.org/)

(6) 出版

教科書「バーチャルリアリティ学」の更なる拡充として下記の別冊教科書企画が進行中です。

- ・ 「ヘッドマウントディスプレイ最前線」
- ・ 「神経刺激インタフェース学」
- ・ 「XRと拡張認知インタフェース」
- ・ 「アートとエンタテインメント」

3. 主催・共催事業に関する事項

2023年度は以下の事業を予定しております。（■主催事業・□共催事業）

■第28回日本バーチャルリアリティ学会大会：

- ・ 2023年9月12日(月)-14日(水)
- ・ 東京たま未来メッセ
- ・ 大会長：串山久美子(東京都立大学) 池井寧(東京大学)

□ICAT-EGVE2023

- ・ Date: December 6-8, 2023
- ・ Place: Dublin, Ireland

■第31回 IVRC (Interverse Virtual Reality Challenge)

- ・ SEED Stage 2023年9月 第28回日本バーチャルリアリティ学会大会内にてOS・体験展示開催.
- ・ LEAP Stage 2023年11月 サイエンスアゴラでの体験審査会開催.

□AsiaHaptics

- ・ 隔年開催のため、2023年は開催無. 2024年に次回開催予定.

□高臨場感ディスプレイフォーラム2023

- ・ 調整中

4. 企画事業に関する事項

2023年度は以下の企画を予定しております.

(1) 研究委員会：

各研究委員会は、本年度計17の研究委員会が下表のように会員に公開する研究会(含、他学会との共催)、OS、講演会、シンポジウム、書籍編集などの実施を予定しています.

研究委員会名	研究会等開催回数	備考
サイバースペースと仮想都市研究委員会	4	継続
複合現実感研究委員会	3	継続
アート&エンタテインメント研究委員会	2	継続
VR心理学研究委員会	1	継続
テレマージョン技術研究委員会	3	継続
香り・味と生体情報研究委員会	4	継続
拡張認知インタフェース調査研究委員会	4	継続
ハプティクス研究委員会	3	継続

情報技術と文化の融合調査研究委員会	2	継続
3次元ユーザインタフェース研究委員会	0	継続
デジタルミュージアム研究委員会	1	継続
VRと超臨場感研究委員会	3	継続
テレグジスタンス研究委員会	3	継続
超高齢社会のVR活用研究委員会	1	継続
人間拡張研究委員会	2	継続
神経刺激インターフェース研究委員会	2	継続
サービスVR研究委員会	1	継続

(2) VR技術者認定講習会・試験

第22回(セオリーコース)

オンラインで春～夏に実施予定です。

最大300名まで受験可能とする予定です。

第23回(アプリケーションコース)

オンラインで秋～冬に実施予定です。

最大300名まで受験可能とする予定です。

(3) 各種ワーキンググループ

未来ビジョンワーキンググループ・倫理ワーキンググループ・ホームページ刷新ワーキンググループの活動を進める予定です。

5. 会議に関する事項

(1) 総会

2023年通常総会を3月22日にオンラインで行います。

(2) 理事会

合計6回(1月, 3月, 5月, 7月, 9月, 11月)の理事会を開催する予定です。

尚, 理事会のない月に会長・副会長及び総務・会計担当者による総務会議を開催する予定です。

(3) 評議員会

合計2回の評議員会を開催する予定です。

回	開催日	会場	主な議事
1	3月22日	東京大学	年間報告・計画について
2	9月13日	東京たま未来メッセ	年間報告・計画について

6. 表彰に関する事項

(1) フェロー

会長を委員長とするフェロー選考委員会を組織し、2023年フェロー称号の授与者を決定する予定です。

(2) 研究業績賞

授与対象者の検討をし、対象者がいる場合に贈呈する予定です。

(3) 論文賞

論文誌Vol.27, No.1 からVol.27, No.4に掲載された論文の中から優秀な論文を選考し、5件程度の論文に論文賞を贈呈する予定です。

(4) 学術奨励賞

第28回日本バーチャルリアリティ学会大会で優秀な発表を行った若手講演者に対して、学術奨励賞を贈呈する予定です。

第5号議案

2023年度 収支予算

収支予算案

2023年 1月 1日から2023年12月31日まで

特定非営利活動法人 日本バーチャルリアリティ学会

科 目	2022年度予算額	2022年度決算額	2023年度予算案		
			各科目予算	内部取引消去	合 計
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
受取入会金	900,000	1,068,000	900,000	0	900,000
受取会費	16,574,000	17,175,000	17,037,000	0	17,037,000
正会員会費(普通会員)	10,030,000	10,286,000	10,110,000	0	10,110,000
正会員会費(上級会員)	320,000	340,000	330,000	0	330,000
正会員会費(減免会員)	105,000	100,000	115,000	0	115,000
学生会員会費	1,584,000	1,814,000	1,812,000	0	1,812,000
賛助会員会費	4,000,000	4,100,000	4,100,000	0	4,100,000
一般会員会費	50,000	30,000	40,000	0	40,000
購読会員会費(書店)	80,000	130,000	80,000	0	80,000
購読会員会費(図書館)	405,000	375,000	450,000	0	450,000
受取寄付金	0	0	0	0	0
受取助成金	0	0	0	0	0
事業収入	23,974,500	30,165,794	26,087,500	△ 1,405,000	24,682,500
年次大会	7,785,000	9,226,000	9,000,000	△ 255,000	8,745,000
IVRC	2,700,000	2,100,022	2,700,000	0	2,700,000
AHs	1,670,000	1,065,002	0	0	0
ICAT	874,000	3,115,000	0	0	0
科研費助成金	0	1,200,002	0	0	0
研究委員会活動収入	457,500	1,186,508	1,697,500	△ 1,150,000	547,500
通常総会収入	80,000	0	80,000	0	80,000
講習会収入	3,398,000	5,606,500	5,600,000	0	5,600,000
出版収入	7,010,000	6,666,760	7,010,000	0	7,010,000
過去会誌頒布収入	10,000	0	10,000	0	10,000
論文誌投稿料収入	5,000,000	4,645,000	5,000,000	0	5,000,000
その他出版物収入	2,000,000	2,021,760	2,000,000	0	2,000,000
その他収入	156,000	1,143,562	156,000	0	156,000
雑収入	155,000	135,670	155,000	0	155,000
受取利息	1,000	892	1,000	0	1,000
寄付金	0	1,007,000	0	0	0
経常収益計	41,604,500	49,552,356	44,180,500	△ 1,405,000	42,775,500
(2) 経常費用					
事業費	30,351,965	30,005,764	33,991,300	△ 1,405,000	32,586,300
通常総会費	300,000	92,675	300,000	0	300,000
年次大会	8,000,000	6,796,553	9,800,000	0	9,800,000
IVRC	4,746,100	3,652,856	4,746,100	0	4,746,100
AHs	1,433,515	795,968	0	0	0
ICAT	852,249	3,012,755	0	0	0
科研費	0	1,200,002	0	0	0
研究委員会活動費	1,824,200	1,706,478	2,037,200	△ 255,000	1,782,200
支払負担金	0	12,000	12,000	0	12,000
講習会費	2,911,401	4,762,059	5,500,000	0	5,500,000
研究部会費	0	0	1,150,000	△ 1,150,000	0
WG経費	0	0	150,000	0	150,000
出版事業費	9,684,500	7,260,679	8,496,000	0	8,496,000
学会誌	7,008,500	4,981,070	5,680,000	0	5,680,000
会議費	0	0	0	0	0
通信運搬費	800,000	885,200	800,000	0	800,000
印刷製本費	2,000,000	1,974,800	2,000,000	0	2,000,000
諸謝金	380,000	247,000	380,000	0	380,000
委託費	3,828,500	1,874,070	2,500,000	0	2,500,000
論文誌	1,666,000	1,803,828	1,806,000	0	1,806,000
会議費	0	0	0	0	0
通信運搬費	3,000	0	3,000	0	3,000
印刷製本費	3,000	0	3,000	0	3,000
委託費	1,660,000	1,803,828	1,800,000	0	1,800,000
その他刊行物	1,010,000	475,781	1,010,000	0	1,010,000
通信運搬費	10,000	0	10,000	0	10,000
印刷製本費	1,000,000	475,781	1,000,000	0	1,000,000
授与費	600,000	713,739	800,000	0	800,000
学会ウェブシステム構築費	0	0	1,000,000	0	1,000,000
管理費	9,043,000	9,540,778	9,543,000	0	9,543,000
印刷費	8,000	4,768	8,000	0	8,000
消耗品費	70,000	18,700	70,000	0	70,000
諸会費	50,000	50,000	50,000	0	50,000
通信運搬費	300,000	249,614	300,000	0	300,000
情報システム管理費	1,000,000	878,243	1,000,000	0	1,000,000
電子広報費	165,000	165,000	165,000	0	165,000
会議費	200,000	121,743	200,000	0	200,000
支払手数料費	300,000	266,443	300,000	0	300,000
租税公課	450,000	758,043	450,000	0	450,000
事務局運営費	6,500,000	7,028,224	7,000,000	0	7,000,000
その他雑費	176,000	391,910	310,000	0	310,000
経常費用計	39,570,965	39,938,452	43,844,300	△ 1,405,000	42,439,300
評価損益等調整前当期経常増減額	2,033,535	9,613,904	336,200	0	336,200
評価損益等計	0	0	0	0	0
当期経常増減額	2,033,535	9,613,904	336,200	0	336,200
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計	0	0			0
(2) 経常外費用					
経常外費用計	0	0			0
当期経常外増減額	0	0			0
税引前当期一般正味財産増減額	2,033,535	9,613,904			336,200
法人税、住民税及び事業税	603,800	706,500	600,000		600,000
当期一般正味財産増減額	1,429,735	8,907,404			△ 263,800
一般正味財産期首残高	112,746,025	112,746,025			121,653,429
一般正味財産期末残高	114,175,760	121,653,429			121,389,629
Ⅲ 正味財産期末残高	114,175,760	121,653,429			121,389,629

第6号議案 2023年度 理事および監事の選出

本会定款第13条に従って、2023年度理事および監事の選出を行います。

役員候補者選出選挙で選出された理事および監事の候補者は以下の通りです。

■ 会長		
任期1年（非改選 任期2024年3月まで）		
竹村 治雄	大阪大学	1982年大阪大学基礎工学部情報工学科卒業、1987年同大学大学院博士課程単位取得退学。(株)国際電気通信基礎技術研究所(ATR)研究員、主任研究員を経て、1994年4月奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科助教授。2001年4月大阪大学サイバーメディアセンター教授。2002年同大学情報科学研究科教授(兼任)。2005年8月同大サイバーメディアセンター副センター長(兼任)、2007年8月同センター長(兼任)、2011年8月同副センター長(2013年8月まで兼任)、2012年4月全学教育推進機構企画開発部長(兼任)および同教育学習支援部門長(2013年5月まで兼任)、2013年6月教育学習支援センター長(2016年3月まで兼任)、2022年4月同大スチューデントライフサイクルサポートセンター 副センター長(兼任)、現在に至る。工学博士。主として3次元ユーザインタフェース、複合現実感、HCIの教育・研究に従事。日本バーチャルリアリティ学会フェロー、ヒューマンインタフェース学会、情報処理学会、電子情報通信学会、IEEE、ACM各会員。2014年～2017年本学会副会長。
■ 副会長		
任期1年（非改選 任期2024年3月まで）		
相澤 清晴	東京大学	1983年東京大学工学部電子工学科卒業。1988年大学院博士課程修了。工博。東京大学助手、講師、助教授を経て、2001年より教授。現在、大学院情報理工学系研究科電子情報学専攻 教授。この間、1990年から2年間米国イリノイ大学客員助教授。画像・メディア処理に関する研究に従事。電子情報通信学会より、88年学術奨励賞、90年 論文賞及び米澤ファウンダーズメダル、92年 業績賞、98年 論文賞、99年 エレクトロニクスソサイエティ賞を受賞。2002年日本IBM科学賞受賞。IEEE Trans. Image Processing, Trans. Multimedia, Trans. CSVT のAssociate Editor、電子情報通信学会情報システムソサイエティ会長、映像情報メディア学会会長を務めた。現在、IEEE MultiMedia, ACM TOMM 等 Editorial Board, ACM SIGMM Executive Comm. Memberを務めた。ACM Multimedia2012, ACM ICMR2018 General Co-Chairをはじめとして多数の国際会議等へ貢献。IEEE / IEICE / ITE Fellow, 日本学術会議会員。
任期2年（改選 任期2025年3月まで）		

串山 久美子	東京都立大学	1982年武蔵野美術大学建築学科卒業, 1984年筑波大学大学院芸術研究科修了, メディア制作を業務とする株式会社グロースを起業, 1992年より武蔵野美術大学, 早稲田大学, 千葉大学非常勤講師, 2005年JSTさきがけ研究員, 東京農工大学客員教授を経て2006年より首都大学東京システムデザイン研究科教授に就任. 博士(デザイン学)情報処理学会DCON編集委員. 専門はインタラクティブアート&デザイン, バーチャルリアリティ, 触視覚ディスプレイの開発と研究. L5Gを使用した車いすARプロジェクト.1981年よりメディアアート作品発表, 2000年よりSIGGRAPH Art Gallery, Emerging Technology やArs Electronicaなどに数多く出展. 2021-22年度理事
■ 理 事		
任期1年 (非改選 任期2024年3月まで)		
黒田 嘉宏	筑波大学	2000年京都大学総合人間学部基礎科学科卒業, 2005年同大学大学院情報学研究科社会情報学専攻博士後期課程修了. 同年, 同大学医学研究科特任助手, 2006年大阪大学大学院基礎工学研究科助手, 2013年同大学サイバーメディアセンター准教授, 2016年同大学大学院基礎工学研究科准教授, 2019年筑波大学システム情報系教授, 現在に至る. 博士(情報学). 物理モデルに基づく非拘束インタラクション技術, 生体物理シミュレーション, 医用システムに関する研究に従事. 2006年~2010年本学会ニューズレター編集委員会ならびに学会誌委員会委員, 2012年~2018年本学会論文委員会 委員, 2018年~2020年本学会ハプティクス研究委員会 委員長.【研究運営委員会担当】
永谷 直久	京都産業大学	2005年電気通信大学電気通信学部知能機械工学科卒業. 2011年電気通信大学大学院電気通信学研究科博士後期課程単位取得済み退学. 2012年3月博士(工学). 日本学術振興会特別研究員(DC1). 2012年東北大学大学院情報科学研究科研究特任助教, 2013年八戸工業大学防災技術社会システム研究センター博士研究員, 2015年京都産業大学コンピュータ理工学部助教を経て, 2018年より京都産業大学情報理工学部准教授, 現在に至る. ヒトの感覚知覚特性を利用した感覚拡張インタフェースの研究に従事. 本学会では, ニューズレター編集委員(2014-2018), VR技術者認定制度委員会委員(2017-2020), 学会誌編集委員会委員(2017-), 2021年より学会誌編集委員長を務める.【学会誌担当】
鳴海 拓志	東京大学	2006年東京大学工学部システム創成学科卒業. 2008年東京大学大学院学際情報学府修了. 2011年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了. 東京大学大学院情報理工学系研究科知能機械情報学専攻助教, 講師を経て, 2019年より准教授, 現在に至る. 博士(工学). クロスモーダルインタフェース, ゴーストエンジニアリング等の研究に取り組む. 本学会では, ニューズレター編集委員会 委員(

		2011～2013)および幹事(2014～2017), 論文委員会 幹事(2016～2019)副委員長(2020～), デジタルミュージアム研究委員会 幹事 (2011～), 情報技術と文化の融合研究委員会 幹事 (2017～), 複合現実感研究委員会 委員 (2013～), VR文化フォーラム運営委員会 委員 (2014～), ASIAGRAPH運営委員会 委員 (2014～), 大会 プログラム委員 (2011, 2018), 企画委員(2013), 広報担当 (2020), 幹事(2014, 2019), 幹事(総務兼任)(2015)を務める。【論文誌担当】
野嶋 琢也	電気通信大学	1998年東京大学工学部計数工学科卒業。2003年同大学大学院工学系研究科先端学際工学専攻博士課程修了。博士(工学)。2003年航空宇宙技術研究所研究員, 組織改編により現在の宇宙航空研究開発機構研究員を経て, 2008年より電気通信大学大学院情報システム学研究科准教授。2016年より同大情報理工学研究科准教授。現在に至る。2008年よりVR学会企画委員, 2014年より同論文委員。触覚インタフェース, オーグメントedsスポーツ, エンタテインメント等の研究に従事。2016年より超人スポーツ研究委員会幹事, 2022年より人間拡張研究委員会幹事を務める。2015年度～2018年度理事(企画・認定担当。2017年度10月より総務担当兼任)2020年度より総務担当理事【総務担当】
大谷 智子	大阪芸術大学	2004年聖心女子大学大学院文学研究科人間科学専攻博士後期課程単位取得満期退学。東京大学大学院情報学環特任助教, 東京大学インテリジェントモデリングラボラトリー特任研究員, 東北大学電気通信研究所助教, 東京藝術大学芸術情報センター助教, 明治大学総合数理学部助教を経て, 2023年度から大阪芸術大学アートサイエンス学科准教授。2008年に聖心女子大学にて博士号(心理学)取得。人間の色知覚に関する研究, マルチモーダル環境下における臨場感・迫真性に関する研究や, インタフェースやデジタルコンテンツの心理学的評価を行うとともに, 当該分野の一般社会への理解増進事業に従事。近年は, 錯視ブロックを用いた二次元平面と三次元立体の対応に関する研究や鏡面消失錯覚に関する研究等を行っている。本学会では, 理事(2016～2018年度学会誌担当, 2022年度～総務担当), 学会誌編集委員(2015～2017年9月はVRメディア評論担当, 2016～2018年度副編集委員長, 2019年度編集委員長, 2020年度～アドバイザー), 情報技術と文化の融合調査研究委員会幹事(2007年～)を務める。【総務担当】
木村 朝子	立命館大学	1996年大阪大学基礎工学部卒。1998年同大学院基礎工学研究科博士前期課程修了。2000年同大学助手, 2003年立命館大学理工学部助教授, 科学技術振興機構さきがけ研究員等を経て, 2009年立命館大学情報理工学部准教授, 2012年より同教授。現在に至る。博士(工学)。実世界指向インタフェース, 複合現実感, クロスモーダルインタフェース, ハプティックインタフェースの研究に従事。日本バーチャルリアリティ学会, 情報処理学会, 電子情報通信学会, ヒューマン

		インタフェース学会, ACM, IEEE各会員. 本学会では, 論文委員(2008~2011), 会誌委員(2008~2011)を務める. 【論文誌担当】
古川 正紘	大阪大学	2005年電気通信大学電気通信学部知能機械工学科卒業. 2010年電気通信大学大学院電気通信学研究科博士後期課程修了. 2010年3月博士(工学). 日本学術振興会特別研究員(DC2). 2011年慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科特任助教, 2014年大阪大学大学院情報科学研究科助教, 科学技術振興機構さきがけ研究員を経て, 2020年同准教授, 現在に至る. テレイグジスタンス, 錯覚利用インタフェース, 歩行誘導, 皮膚触覚の研究に従事. 2007年より日本バーチャルリアリティ学会に所属し, 2009-2013ニューズレター編集委員, 2014-テレイグジスタンス研究委員会幹事, 2016-論文誌委員会委員, 2018-VR技術者認定制度委員会幹事を務める. 【VR技術者認定担当】
松田 克巳	株式会社フォーラムエイト	1998年龍谷大学経営学部経営学科卒業. 同年(株)フォーラムエイト入社. 2013年執行役員システム営業マネージャに就任. VR, FEM, 設計関連パッケージを活用した各種システム構築に従事し, 現在に至る. 建設・自動車等の業界を中心に各種ハードウェア・ソフトウェアとVRソフトウェアを連携したシステム構築を多数手がける. VRソフトウェア(UC-win/Road)にて2019年度ものづくり日本大賞 経済産業大臣賞を構成員として受賞. 2019年11月第17回バーチャルリアリティ技術者認定講習会(アプリケーションコース)「第7章 VRコンテンツ」講師担当. 【大会担当】
任期2年 (再任 任期2025年3月まで)		
稲見 昌彦	東京大学	1994年東京工業大学生命理工学部生物工学科卒業. 1996年同大学大学院生命理工学研究科修士課程修了. 1999年東京大学大学院工学研究科博士課程修了. 博士(工学). 同年東京大学リサーチ・アソシエイト, 2001年同大学助手, 2003年電気通信大学知能機械工学科講師, 2005年同大学助教授, 2006年同大学教授. JSTさきがけ研究者, MITコンピュータ科学・人工知能研究所客員科学者を経て, 2008年慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授. 2015年11月東京大学大学院情報理工学系研究科教授, 2016年4月より同大学先端科学技術研究センター教授, 現在に至る. 同大学VR教育研究センター応用展開部門長を兼任. JST ERATO 稲見自在化身体プロジェクト研究総括, IPA未踏PM, 日本学術会議連携会員. 1995年よりIVRC実行委員, 2017-2019年同運営委員会委員, 2020年より同実行委員長, 2017-2019年及び2021-2023年ICAT運営委員会 委員, 2019-2020年同General Chair, 2023年より同運営委員, 2004-2005年日本VR学会大会幹事, 2008-2011年及び2017-2019年同学会評議員, 2012-14年及び2021年より同学会理事, 2021年度フェロー, 2023年より

		人間拡張研究委員会 委員長. 2014年より超人スポーツ協会 代表理事, 2018-2022年情報処理学会学会誌情報処理編集長, 2019年より同学会代表会員, 2020年より同学会シニア会員, 2022年より同学会理事, 経営企画委員会 委員, 広報小委員会 委員, SIGGRAPH2016 Etech Chair, ICAT-EGVE2019 General Chair等歴任.【国際担当】
岩井 大輔	大阪大学	2003年大阪大学基礎工学部システム科学科卒業. 2005年同大学院基礎工学研究科博士前期課程修了. 2006～2008年日本学術振興会特別研究員. 2007年同大学院博士後期課程修了. 博士(工学). 2008年同大学院助教. 2011年同大学院講師. 2013年同大学院准教授. この間, 2007～2008年ドイツ・バウハウス大学客員研究員, 2011年スイス・ETH客員研究員. バーチャルリアリティ, 複合現実感, 質感科学の研究に従事. 本学会では, 複合現実感研究委員会幹事のち副委員長(2015～現在), アート&エンタテインメント研究委員会幹事補佐のち幹事(2009～2020), 論文委員(2012～2018), 学会誌委員(2012～2016)を務める.【会計担当】
北崎 充晃	豊橋技術科学大学	1992年東京大学文学部心理学専修課程卒業, 1997年同大学院総合文化研究科広域科学専攻博士課程修了. 博士(学術). 1997-2000年同大学院人文社会系研究科助手, 2000 年より豊橋技術科学大学工学部講師, 助教授, 准教授を経て, 現在は同大学大学院工学研究科情報・知能工学系教授. 2005年より日本心理学会専門別議員. 2014年より日本基礎心理学会理事. 2017年より日本視覚学会幹事. バーチャルリアリティと心理学の融合領域研究に従事.【広報出版担当】
小泉 直也	電気通信大学	2012年慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科後期博士課程修了. 博士(メディアデザイン学). 日本学術振興会特別研究員PD, 東京大学情報学環研究員を経て, 現在, 電気通信大学情報理工学研究科准教授. 知覚作用インタフェース, 空中像光学系やクロミック作用を利用したディスプレイの研究に従事.【学会誌担当】
半田 拓也	NHK 放送技術研究所	2001 年, 電気通信大学大学院電子工学専攻修了. 同年, NHK 入局. 岡山放送局を経て, 2005年より, 放送技術研究所においてユニバーサルサービス, 触覚インタフェース, AR/VRなどの研究に従事. 現在, NHK放送技術研究所空間表現メディア研究部研究プロデューサー. 同学会ハプティクス研究委員会委員. 2020年, 東京大学大学院新領域創成科学研究科複雑理工学専攻修了. 博士(科学).【ニューズレター担当】
任期2年 (新任 任期2025年3月まで)		

安藤 英由樹	大阪芸術大学	1974年生まれ。1999年愛知工業大学大学院工学研究科修士課程電気電子工学専攻修了, 2000年理化学研究所ジュニア・リサーチ・アソシエイト, 2001年科学技術振興事業団「協調と制御」領域前田研究室研究員, 2003年株式会社エーアイ技術員, 2004年東京大学情報理工学研究科論文博士(情報理工学)取得。2004年NTTコミュニケーション科学基礎研究所研究員(RA・RS)を経て, 2008年大阪大学大学院情報科学研究科バイオ情報工学専攻准教授を経て, 2020年より大阪芸術大学アートサイエンス学科教授。人間情報工学を専門とし, 錯覚を用いた非言語的インタフェースなどを研究するかたわら, 専門領域を題材とした作品制作にも意欲的に取り組む。2008年文化庁メディア芸術祭アート部門優秀賞, Prix Ars Electronica 2009ならびに2011 Interactive Art部門でHonorary Mention受賞。【文化・芸術担当】
嵯峨 智	熊本大学	1975年生まれ。2000年東京大学大学院 計数工学専攻 博士前期課程 修了, 2000年 セコムIS研究所 研究員, 2007年 東京大学大学院 情報理工学系研究科 システム情報学専攻 博士後期課程 修了 博士(情報理工学), 2007年 東北大学大学院 工学研究科 バイオロボティクス専攻 助教, 2008年 東北大学大学院 情報科学研究科 システム情報科学専攻 助教, 2012年 マサチューセッツ工科大学 客員助教 兼任, 2013年 筑波大学 システム情報系 情報工学域 准教授, 2017年 熊本大学 大学院先端科学研究部 環境科学部門 知能情報工学分野 准教授。人間の機能拡張をキーワードとして掲げ, 主に触覚を中心としたインタフェースの研究に従事。2015年, 2016年 本学会年次大会幹事。2021年より本学会ハプティクス研究会委員長。2022年より本学会学会誌委員会幹事。【研究運営委員会担当】
橋田 朋子	早稲田大学	2003年東京藝術大学音楽学部楽理科卒業, 2008年東京大学大学院学際情報学府博士課程単位取得退学。博士(学際情報学)。東京大学 特任研究員, 早稲田大学理工学術院 基幹理工学部表現工学科 専任講師, 准教授を経て2021年より同 教授。モノに潜在する機能や価値を引き出すインタフェースや, 人の想像する力にゆだねるメディアの研究・開発に従事。【文化・芸術担当】
吉田 ひさよ	ヘキサゴンジャパン株式会社	ヘキサゴンジャパン株式会社 取締役/日本代表。1993年米国・オハイオ州立大学大学院留学。学際研究所 Advanced Computing Center for the Arts & Design(ACCAD)に属し, 認知工学, 人間工学, CG, VR 等を学びながら研究助手として3D CG 用インハウスソフトウェアの GUI 設計・デザインに従事。帰国後は日本ヒューレット・パッド社, クリスティ・デジタル・システムズ日本支社でマーケティングやプリセールス等の業務を担当し, 2017 年 6 月より現職。プロジェクションマッピングブームを日本市場に仕掛けるなど, 映像関連のビジネス企画立ち上げを得意とする。1998 年~2003 年多摩 美術大学グラフィックデザイン

		学科非常勤講師。海外のメディアアーティスト、CGデザイナー＆アニメーター、プロジェクトマッピングディレクター等の講演通訳の経験多数。本学会では理事（2015年～2018年【企業・学会リエゾン】担当）【VR技術者認定担当】
■ 監 事		
任期1年（非改選 任期2024年3月まで）		
岩田 洋夫	筑波大学	1957年東京生まれ。1981年 東京大学工学部機械工学科卒業、1986年 東京大学大学院工学系研究科修了（工学博士）、同年筑波大学構造 工学系助手。現在筑波大学システム情報系教授。バーチャルリアリティ、特にハプティックインタフェース、ロコモーションインタフェース、没入ディスプレイの研究に従事。SIGGRAPHのEmerging Technologiesに1994年より14年間続けて入選。東京テクノフォーラム・ゴールドメダル賞（1998年）、文化庁メディア芸術祭優秀賞（2002年）、文部科学大臣表彰 科学技術賞（2011年）などを受賞。2013年～2020年、筑波大学グローバル教育院 エンパワーメント情報学プログラムリーダー。1996年～2007年本学会理事。2010年～2013年本学会副会長。2016年～2019年本学会会長。
任期2年（新任 任期2025年3月まで）		
大須賀 美恵子	大阪工業大学	1957 年兵庫県生まれ。1979 年東京大学工学部計数工学科卒業、同年、三菱電機株式会社入社。中央研究所、先端技術総合研究所にて生理心理工学分野の研究、バーチャルリアリティ応用を含むウェルネスシステム開発に従事。1994 年博士（工学）。2002 年大阪工業大学情報科学部情報メディア学科教授、2006 年同大学工学部生体医工学科教授、2010 年同大学工学部ロボット工学科教授、2017～2020 年同大学ロボティクス＆デザイン工学部学部長・ロボット工学科教授。2021～同学部システムデザイン工学科特任教授、2002～2005 年本学会理事。2018 年～本学会副会長、2020～2021本学会会長。

2023年3月をもって退任する役員は以下の5名です

副会長：小木哲朗

理事：黒田晴彦・苗村健・野間春生

監事：石橋聡

以上